

特定

特定施設では機能訓練の一貫として、毎日、朝のラジオ体操や午後からは音楽に合わせての体操を行っています。また、歩行訓練や手すりを持って車いすからの立ち上がり訓練を行っています。体を動かすことにより、血流が良くなり、脳の活性化にもつながります。ご利用者も音楽を口ずさむ方や終始笑顔が見られる方、体操を完璧に覚えられている方などさまざまです。

ご利用者が健康で、日々笑顔で穏やかに過ごされるよう、お手伝いできればと思っています。



リハビリ体操や機能訓練の様子



主に身体機能の維持を目的にご利用者に合った機能訓練を行っています。

ショート



たくさん折るのは大変だけど、楽しいし、みんなが喜んでくれるのでうれしいです♡

ショートステイでは吉祥祭の飾りつけなどをご利用者と一緒に作成しました。普段から折り紙で花や金魚などを折って季節の飾りを作ってくださいご利用者がこの時は次々と飾りの花や鎖飾りを作ってください、当日は華やかに飾られたホールでゲームや金魚すくいを楽しまれました。また、ショートステイではパズルが流行っており、脳トレの一貫としてご利用者同士であったり、職員と一緒にあったり、楽しく話しをしながら行っています。

今後も職員、ご利用者みなでアイデアを出し合って楽しいレクリエーションを行っていきたくと思っています。



指定居宅介護支援事業所

私たちケアマネジャーが、皆様の介護のご相談や介護保険利用のお手伝いをいたします

まずは、お気軽にご相談ください。



【営業時間】

月～土曜日 8:30～17:30

【ご連絡先】

居宅介護支援事業所 吉祥

TEL 087-818-1207

ある日の訪問より



【利用者ご家族】

去年は新型コロナウイルスの感染予防対策でインフルエンザ感染者がほとんどいなかったと聞きました。感染対策をずっと続けていて今年も流行しないだろうから、今年はインフルエンザ予防接種の必要はないんじゃないですか？

【ケアマネ】

昨シーズンは、インフルエンザ感染者が極めて少なかったため、社会全体の集団免疫ができておらず、今年大流行する可能性があり、今年もインフルエンザ予防接種実施が推奨されています。インフルエンザと新型コロナウイルスの症状が似ているため、インフルエンザの流行を抑えることがひっ迫している医療現場の助けにもなります。



特集

～吉祥の避難訓練の様子をご紹介します～

事故対策・防災・身体的拘束適正化検討委員会

令和3年8月25日、火災避難訓練を実施しました。社会福祉施設では、年2回以上避難訓練を実施することが消防法で定められています。

今回はケアハウス・デイサービス・ショートステイ全部署合同で、ケアハウス1階機械室のボイラーから出火したとの昼間想定で避難訓練を実施しました。



①非常ベル・サイレンに気づいた職員が、いち早く事務所に駆け付け、防災監視盤で出火場所を確認します。

②直近の消火器を携えて出火場所に急行し、初期消火を行います。

③直ぐに事務所に戻り、手分けして非常（館内）放送および119番通報を行います。

出火場所確認、機械室！

初期消火、失敗！！



②



③

ただいま火災が発生しました・・・

パニックにならず、冷静に冷静に！！

④その後は全職員がご利用者の避難誘導にあたります。

放送内容で出火場所・何が燃えているかを知った職員は、避難誘導の経路などを即時に判断し、行動に移さなければなりません。

逃げ遅れたご利用者の有無を確認するために、全ての居室、トイレ、浴室等を見て回ります。

また、この時各部屋の扉や廊下側の窓を閉めることを忘れてはいけません。

ご利用者の身体状況に応じて避難誘導方法が違ってきます。

例えば、寝たきりのご利用者の場合は、ベッドのまま避難！！
耳が聞こえにくい、目が見えにくい、または認知症を患っておられるご利用者の場合は、常に傍らに付き添い安心できるような声掛けや、身体に触れて安心感を抱いていただけるような配慮が必要となります。その方法も、両肩を支えて・・・、おんぶ・・・、車椅子のまま等々・・・。

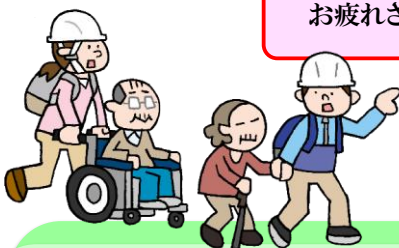


④



④

⑤各部署のリーダーが、それぞれ避難完了の旨を施設長に報告します。



お疲れさまでした。



⑤

ご利用者を、避難階段を使って屋外に誘導するときは、細心の注意が必要です。

全ご利用者・職員が一時避難場所である駐車場に、事故なく無事に避難しました。

吉祥では、ご利用者の生命・身体を守ることを最優先に考え、全職員に対し防災に関する教育・訓練を計画的に実施しております。

そして、それらを反復して実施することで、防災意識の高揚を図るとともに防災マニュアルの内容も必要に応じて改定しております。

消防署指導の下、火災のみならず、地震・土砂災害・豪雨等々の危険因子排除に今後も努めてまいります。